

ちに転換すべきであります。取り返しがつかなくなる前に。

## 2. なけなしの将来財源を使い尽くす前に、バラマキを止めるべし。

このたびの政府の経済対策では、その財源として、想定外の増収増や、国債の利払い費が思ったよりかからなかった差額分などが活用されております。しかし、これらは本来、借金を返すために使われるべき財源です。

一方で高額所得者にまで子ども手当をバラマキながら、一方でこれらなけなしの将来財源を使うというのは、論外であります。

今回の補正予算の財源として、まずは、景気浮揚効果の薄いバラマキ予算を執行停止し、その財源で対策財源をまかなうべきであります。われわれの試算では、これで、5000億円は確保できます。

民主党のマニフェストに明記してある政策の凍結は決断としては重いものでありますが、今や、過去の経緯や体面や、そういうものにとらわれている余力は、この国にはありません。



ねじれ国会の今こそ、シンフォニーが大事では!?



過去の経験を生かし、国際舞台でも汗を流していきたいです。

## 3. 地方活性化策を強化すべき。

政府の経済対策の具体的な内容をみますと、地域活性化対策が致命的に弱い。

政府の対策では、地方自治体が自由に使える資金であり、まず地域活性化交付金が3500億円となっており、市町村が全部で1727もあり、都道府県が47もある実情を考えれば、これでは全く不十分であります。これは、せめて1兆5000億円規模で地方に交付すべきであります。

以上が、政府が緊急に打たねばならない手であり、同時に、将来の我が国のメシの種類になりうる新産業・新技術の芽には、23年度本予算の方でしっかりとした対応をしていくべきです。2番でいいなんていう気持ちでこれらの施策を考えてはなりません。

最後に、先日ノーベル化学賞を受賞された鈴木章・北大教授の言葉を紹介します。「研究は一番でないといけない、二位ではどうかなどというのは愚問、このようなことを言う人は科学や技術を全く知らない人だ」

「科学や技術を阻害するような要因を政治家がつくるのは絶対だめで、日本の首を絞めることになる、一番になるうとしてもなかなかないことを政治家の人たちも理解して欲しい。」

夢のあるプロジェクトこそ、日本再生の鍵です。

平成二十二年十一月二日

さいとう 健



いわゆる「財政健全化責任法案」を議員立法の提案者の一人として提出いたしました。